

AIが解析 注意喚起



AI（人工知能）が通話を解析し注意喚起。多発する電話de詐欺の被害防止に向け、船橋署と船橋東署は、船橋市や両署管内の防犯組合連合会などと連携し、AI技術を

高齢者宅に専用端末

活用したNTT東日本の対策サービスを試験的に導入した。同市内で詐欺の予兆とみられる電話が集中している地域など的高齢者20世帯に専用端末を設置してもらい効果を検証。有効と確認されれば、設置の拡大を検討していく。



NTT東日本が提供する対策サービスのデモンストレーション＝船橋署

船橋・船橋東署 NTT東のサービス導入

同社によると、「特殊詐欺対策サービス」は固定電話機に接続した専用端末が通話を録音し、1分単位でクラウドに送信。詐欺に使われやすい単語などを学習したAIが内容を解析し、詐欺の疑いがあると判断した場合、事前に登録した電話やメールに自動で「犯罪の疑いがある」などと連絡して注意を促す。登録は本人以外に親族ら最大9人可能という。

同署が独居などの高齢者世帯をそれぞれ10世帯ずつ選定して専用端末を設置。設置工事費8800円は同連合会が負担する。東京都品川区内では、今年1月に同サービスからの連絡で詐欺容疑者の逮捕に至るケースがあった。船橋署によると、電話de詐欺は同市内で8月26日現在、前年同期比15件増の102件（暫定値）確認され、計約2億5千万円の被害が出ている。杵淵賢二署長は「不審な電話に出てしまった高齢者にタイムリーに注意喚起ができる。一歩踏み込んだ対策で、被害防止につながれば」と期待した。

同連合会長の松戸徹船橋市長は「電話de詐欺は高齢者の蓄えを奪う卑劣な犯罪。試験導入の効果を見ながら、市内に展開していきたい」と述べた。



電話機に接続する専用端末

『千葉日報』2022年9月4日付2面